

4 番 熊 澤

受付番号5番、質問議員4番、熊澤友子です。

件名1、「子育て支援のさらなる充実を」。

2、「子どもの居場所づくりを」。

1、子育て支援のさらなる充実を。

山北町は、子育て支援が充実していると感じていましたが、他市町村でも同じような支援が行われており、他の地域からの移住や人口増にはつながっているとは思えません。今はコロナ禍の中で生活や仕事環境が変化し、子育て支援へのニーズも変わっていると考えられます。「山北町乳幼児教育・保育等のあり方基本方針」の中で、0～15歳の一貫教育・保育との一元化を図るとあります。とてもよい取組であると思い、次の点について伺う。

①国の所管では、幼稚園は文部科学省、保育園は厚生労働省となっているが、縦割り行政をやめて担当課の一元化を図るということに支障はないのか。

②この取組は幼児教育の平等性にもつながり、子育て支援も充実していくと思われる。今後の発展と実施時期は。

2、子どもの居場所づくりを。

放課後子ども教室と放課後児童クラブについて伺う。

①放課後子ども教室は参加者が減少しているようであるが、今後の対策は。

②放課後児童クラブ（学童）の申込数は90名で、通常は44名前後で、長い休みになると増えてくる。現在2教室で異年齢の子どもたちがにぎやかに遊んだり宿題をしたり本を読んだり、静と動のメリハリがつきにくい環境である。そこで、向かいにある工作室を学童の教室として常時利用できるように提案する。町の考えは。

議 長 答弁願います。

町長。

町 長 それでは、熊澤友子議員から「子育て支援のさらなる充実を」、「子どもの居場所づくりについて」の御質問をいただきました。

初めに、1点目の子育て支援のさらなる充実をについて、1番目の質問の「国の所管では幼稚園は文部科学省、保育園は厚生労働省となっているが、縦割り行政をやめて担当課の一元化を図るということに支障はないか」につ

いてありますが、幼稚園は学校教育法や幼稚園設置基準、保育所は児童福祉法や児童福祉施設最低基準、認定こども園については内閣府の子ども・子育て支援法や就学前の子どもに関する教育、保育などの総合的な提供の推進に関する法律など、それぞれの園で運営や設置等に関する法律等が異なりますが、国・県等の所管が違うということが、担当課の一元化への障害となるとは考えておりません。町では、担当課の一元化を図り、乳幼児期から中学校卒業までの一貫した教育・保育を実現することで、多様化する教育・保育や子育て支援に関するニーズ等に、より充実した対応ができると考えており、様々な課題等を解決し、本町の子どもたちを総合的に支援し、よりよい子育て環境を生み出していくことになると考え、担当課の一元化を推進してまいります。

次に、2番目の御質問の「この取組は幼児教育の平等性にもつながり、子育て支援も充実していくと思われる。今後の展開と実施時期はについて」であります。現在山北町の幼稚園、保育園、認定こども園では、山北こども研究会を立ち上げ、共通の就学前カリキュラムを基に、小学校への円滑な接続に向けて共通の教育を受けることができるようにしております。担当課の一元化については、山北町行政改革推進会議において、福祉課と学校教育課等の乳幼児教育・保育の業務内容を統合した班体制をとるか、新たな課を立ち上げるかなど、組織・機構、事務分掌、課配置について検討しております。より充実した支援体制の在り方や一貫教育・保育の進め方、町民への周知等を含め、園や小中学校、福祉課、学校教育課の代表者で構成する委員会を立ち上げ、山北町の一貫教育・保育の基本方針を令和3年度中に策定し、令和4年度から担当課の一元化に向けて取り組んでまいりたいと考えております。

次に、2点目の「子どもの居場所づくり」について、1番目の御質問の「放課後子ども教室は参加者が減少しているようであるが、今後の対策は」についてであります。本町では子どもたちが地域社会の中で心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進することを目的として、放課後子ども教室を毎週水曜日、放課後児童クラブと一体型で運営しております。放課後子ども教室の登録者数ですが、平成30年度は148名、令和元年度は158名、令和2年度は154名であります。また、参加者数ですが平成30年度は延べ3,632名、令和元

年度は3,499名、令和2年度は新型コロナウイルス緊急事態宣言に伴う学校休業期間閉室していたため、延べ参加人数はかなり減少していますが、児童数が減少傾向にある中において、登録者数は横ばいの状況であります。今後も、放課後児童クラブとの連携をさらに深め、魅力ある放課後子ども教室の運営に努めてまいります。

次に、2番目の御質問の「放課後児童クラブは現在2教室で、異年齢の子どもたちがにぎやかに遊んだり宿題をしたり本を読んだり、静と動のメリハリがつきにくい環境である。そこで、向かいにある図工室を学童の教室として常時利用できるように提案する。町の考えは」についてであります。現在、放課後児童クラブでは、二つの教室に加え、図工室またはランチルームを使用しております。1日当たりの利用人数は、昨年度末時点で48名となっており、二つの教室は条例上の面積基準に照らし合わせると、それでも38名まで保育することができますので、通常は規定範囲内での運用が可能となっております。しかし、御指摘のように、夏休みなどの長期休業中の一時的な利用人数の増加や、学習などで静かに過ごすためには、三つの教室が必要不可欠ではありますが、図工室については12月から2月の間学校の授業を行うため、昨年度から教育委員会及び川村小学校と調整をし、図工室が使用できない期間については、現在の教室から近いランチルームを併用しております。本事業は、小学校の余裕教室を活用するという原則があることに加え、現在利用している教室からあまり離れた教室とならないよう考慮する必要もあるため、図工室の常時利用については、教育委員会及び川村小学校との調整や改修費用等なども踏まえ、実施の方向で検討してまいります。

議 長 熊澤友子議員。

4 番 熊 澤

すみません。ただいま答弁をいただきまして、では、子育て支援のさらなる充実のほうの①のほうの国の所管の件は支障がないということをお伺いいたしました。その点につきまして、それで担当課のことなんですが、町では、この事業に対して担当課を、新たな課を立ち上げるか、また今の既存の課を充実させるかという答弁だったと思うんですが、私はそれは違うんじゃないかなと思っているんです。やはり保護者の方にしましたら、一貫教育となるとやはりその課独自の課で、いろんなことが全て分かるというその便利さ、

そういうことが子育て支援の充実にもつながっていくのではないかと考えるのですが、いかがでしょうか。

議 長 教育長。
教 育 長 一元化の件ですけども、ゼロ歳から15歳までの一貫教育・保育、全国的にも幾つか実際にもう取り組んでいるところがございます。そういった中で、一元化、一つの課にしているところもあれば、今、山北町と同じように福祉課、教育委員会で行っていると、その中で教育という保育というところを業務内容を連携してやるということで、例えば一つの方法としてはフロアを一緒にする。今1階と2階に分けていますので、それを一つのフロアにし、隣同士のところ業務を行っていくという、そういう市町村もございます。さらには、一つの課の中に、内容的に幼稚園、小中学校、それから保育園、こども園、それから学童保育、それらを教育委員会の中に置いて、教育委員会を、いわゆる教育総務課というか、いわゆる教育委員会のいろんな業務、基本的な、そんなところ、あるいは子ども教育課、生涯学習課、こういうふうな三つの課に分けて、そして子ども教育課の中に教育係、あるいは支援係という中で、今先ほど言ったような内容のものを網羅して一元化の中でやっているという、そういうところもございます。

山北町が今考えているのは、できるだけ業務を一つのところ、課の中でできないかということで今これから検討していくということでございます。ですから、最低限フロアを一つにしなきゃいけない、さらには一つにするだけじゃなくて、その中の業務内容を一つのところの担当課の中でできればより理想的なのかなというふうに思って、そのところを今業務内容の洗い出しをして、それができないかどうか、それを今検討しているというところでございます。

議 長 熊澤友子議員。
4 番 熊 澤 じゃあそうしますと、今検討の時期であって、まだ一つの新しい課をつくるか、それとも福祉課、教育課でやるかということはまだ決められないということで、そういうふうに理解しててよろしいですか。

議 長 教育長。
教 育 長 新しい課といいましても、今ある課を拡充するという、そういう考えです

ので、新たに課が一つ増えるという考えではございません。ですから、教育委員会の中に一つの課ができて、そして今学校教育課だけですので、その中に二つの班編成も一つの方法だろうというふうに考えていますので、ですからいろんなバリエーションがありますので、そのところ、よく業務内容を精査して考えていきたいというふうに思っています。ですから、今ある課をさらに一つ増えるという考えではございません。

議 長 熊澤友子議員。

4 番 熊 澤 じゃあ、もうちょっとすみません。確認なんですけども、じゃあ福祉課もその班の中に入るという形よろしいんですか。

議 長 教育長。

教 育 長 業務内容によっては今担当している、例えば保育園、こども園は今福祉課がやっています。ですから、例えば一つの考え方として、それを教育委員会の中に入るということも一つ考えられるということでございます。あるいは、児童クラブも同じような考え方をしているということでございます。

議 長 熊澤友子議員。

4 番 熊 澤 そうしますと、検討中ということですので、今後どういうふうになるか楽しみにしていきたいと思います。

もう一つの今後の捉え方としては、令和4年に向けて実施するというところで、先ほど和田議員の答弁にもお話しされていましたが、1年間かけて子どもたち業務内容からその事業の内容から精査して決めていくという形なんです。そうしますと、一ついいのは幼児教育の平等化、私、前、保育所の方は何というんですか、学業のことは、小学校に入る前の教育は保育課はできないような話をされたことがあったんです。今雇用するときには幼児教員免許と保育の資格の両方を取った方を雇用しているというお話ですので、今は改善されているのかもしれませんが、やはり幼児教育は平等でなければ学校に入学したときに苦勞するんだよということもお母さんから聞いたことがありますので、その辺は一元化するということでは安心していて大丈夫なんですよ。

議 長 教育長。

教 育 長 園の中、幼稚園、それから保育園、そして平成27年にこども園ができました

た。その中で、それまでは今まではそれぞれの園で教育内容について何歳児にはこういう力をつけよう、具体的にこういうことをやろうということでそれぞれがカリキュラムをつくっていた。それをこども研究会というのを立ち上げまして、共通的に山北町の子どもたちの年齢に応じた子どものあるべき姿を明記して、そして共通理解の下で行っているということで、それのところ、横のつながりが見えてきたと、できているという状況です。

ですから、今御指摘のあったようなそういうところは研究会の一つにまとまって、それぞれの園の代表者が集まって研究会の中で協議して、じゃあ今こういう力をつけていこうよ、そのためにはこういう取組が必要だねとか、そういうふうなところで取り組んでいますので、懸念されるようなことはないというふうに思っています。ですから、そういった園の取組、そして、さらには今度小学校、中学校、そういった園、小中学校の縦のつながりをきちっと、もっと一本化しっかりして、そしてさらには横のつながりということで、行政と園・学校と、そして場合によったら地域の人も巻き込んだ中での横のつながり。ですから、縦のつながり、横のつながり、これをしっかりやっつけていきたいと思います。

議 長 熊澤友子議員。

4 番 熊 澤 それを聞きまして安心しましたが、やはりその幼児教育は大事なところでございますので、しっかりと取り組んでいただければありがたいと思います。

それと、先生方がみんな同じ資格を持って保育・教育されていくということとは大事なことだと思いますが、先生方の異動というのは今もやられているとは思いますが、今後もししっかりと何年サイクルでこう異動するとかというのは決められているのでしょうか。

議 長 教育長。

教 育 長 一つの園に何年という、そういう基準はございません。はっきりと明記されているものはございません。ただ、長くその園にいるということもちょっといろんな弊害も出てきますし、あるいは短過ぎてもいけないし、あるいはいろんな状況がありますので、教職員もそうなんですけども、教職員の場合については、大体新規採用の場合には4年というある一つの目安があります。それから、一般教員については大体10年以内、大体6年から8年ぐらいで異

動というその辺のところがございます。ですから、こういった教育に携わる場合については、長くいても駄目ですし、短くても駄目。そのところのバランスとりながら異動していくというのはやっぱり大事なというふうに思っていますので、そういう中で幼稚園、保育園、こども園それぞれがいろんなところにこう担当するという考え方は、もう数年前から先生方も持っておりますので、そういう中で人事異動については進めていきたいというふうに考えてございます。

議 長 熊澤友子議員。

4 番 熊 澤 人事異動の件は分かりました。

それともう一つお伺いしたいのですが、幼稚園における預かり保育の制限を撤廃するという、基準方法の中に書いてあったんですが、これは保護者の方々のニーズと捉えてよろしいのでしょうか。

議 長 教育長。

教 育 長 幼稚園のほう、今まで1人1月に何回までとかそういう制限がございました。そして1日何人までということで。ですから、そういった条件に漏れてしまう保護者も現実にはいました。ですから、そういうところを撤廃して、より保護者のニーズに沿うような形が必要じゃないかということで、これは子育てアンケート等の中でもそういったものは見えていましたので、あり方基本方針の中でそういった形で撤廃をさせていただいたということでございます。ですから、保護者からのニーズに基づいてそういったものを対応していくということでございます。

議 長 熊澤友子議員。

4 番 熊 澤 そうしますと、保護者のニーズでこの撤廃を決めたということになると思うんですが、その延長保育なんですけども、これにはやはり人件費もかさんでくるんじゃないかと思うんですが、その辺はいかがですか。

議 長 学校教育課長。

学 校 教 育 課 長 また後日、新年度予算の御審議をいただくわけなんですけれども、新年度につきましては、そちらのほうも見込みました予算編成を考えてございます。

議 長 副町長。

副 町 長 御質問の中で子どもたちの教育・保育に係る経費というのは、多少かかって
ても仕方ないという考え方で町は取り組んでいますので、経費がかさむとい
うことは議論はちょっと、かさんでも仕方ないなど、子どもたちのためには
という議論でお願いしたいと思います。

議 長 熊澤友子議員。

4 番 熊 澤 分かりました。経費がかさむことは子どものためだからということで理解
すればよろしいということですね。

それで、幼稚園のお母さんたちが延長保育ということは、自分も何かその
最初は、これはこども園のことなのか、はたまたただの幼稚園のことなのか
分かりませんが、保育のほうに申し込むのじゃなくて、現在そういうふう
に延長保育をお願いして自分が何かしたいという理由でそういうふうなこと
になっているという、だったら最初からそっちを申し込めばよかったのかなど
も思うところもあるんですが、そういう理解では駄目なんでしょうか。新年
度に保育園に入学させるか、こども園に入学されるかによって違って来るわ
けじゃないですか。私は、何か幼稚園の延長保育ってどういうことなんだろ
うと思っている人なので、その辺はどうなんでしょうか。

議 長 教育長。

教 育 長 保護者によって、例えば就労したとき、長い期間就労する場合には、やは
りこども園の2号認定か保育園に入園させなきゃならないと、幼稚園の場合
にそのところ例えばパートですと、2時までとか午前中の途中から2時まで
以内のところでは可能なんです。あるいは、急遽保護者によっては用事がで
きたりとか、あるいは短期間の中でどうしても用事ができたとかそういうと
ころも出てくるんです。これまでもそういうことがありました。ですから、
そういう意味での対応が今までは制限があったためにそれが取れなかったと
いうことで不便をかけたということがございますので、そのところに柔軟
に対応できるような形をとるということでございます。

議 長 熊澤友子議員。

4 番 熊 澤 すみません、理解不足で。分かりました、その点につきましては。

それでは、この0～15歳の一般教育・保育一元化をとということがもう来年、
再来年ですか、4月度からはそれが実施されるということで、私も本当にそ

れはとてもいい取組だと思っていますので、さらなる子育て支援の充実に向けてしっかりと頑張ってもらえればありがたいかなと思っています。

それでは次に、子どもの居場所づくりについて質問させていただきます。最初に、放課後子ども教室について伺います。答弁の中で、申込数も令和元年、2年と158名、154名いたというお話を聞いていますが、申込みは実際にその150人ぐらいは常にあるということは聞いております。しかし、実際に登録した人数でなくて参加する人数、コロナ禍になるちょっと前はもう学童の子どもたちだけだよという、実際に参加してるメンバーは、それはそれでいいのかなと考えまして、やはり皆さんにこの子ども教室のことをもっとアピールしまして、充実した事業にしていきたいなと思いますが、その辺はいかがでしょうか。

議 長
生涯学習課長

生涯学習課長。ちょっと申込者数が平成30年度148名、平成31年度158名、令和2年度154名ということで、ほぼ一定しているなど、大分定着しているなという感じはしております。そして、30年度の合計参加者数、実際の参加者数、30年度が3,632名、31年度が3,499名、令和2年度につきましてはちょっとコロナの状況で激減しているという状況です。議員のおっしゃるちょっと前、コロナのはやる前、そこら辺がちょっと少なかったかなというような御意見があるのかと思いますけど、実は私どものほうで調べたところ、昨年3月頃には、やはり御自宅に居場所のある方は少し自粛をしてくださいといった要請をかけまして、そこら辺の影響じゃないかなというふうに思っております。現実的にこの合計数からしても、この3月の規制をかけた分が減っているだけで、現実的に参加者数も横ばいという状況が見えております。

議 長
4 番 熊 澤

熊澤友子議員。数でそういうふうに担当課の方おっしゃいますが、現実に登録はしているけども何か行きづらいという形の子どもさんもいたりして、やはり何か学童のメンバーだけだと自分が入っていけないみたいなのが、何人かいたという話も聞きました。やはりその辺を考慮していかなければいけないし、せっかくアドバイザーや安全委員さん、学習アドバイザーの方ですか、いらっしゃるので、やはり多くの児童に週1回の事業でするので参加していただき

いなと思っています。今コロナ禍なので何とも言えませんが、今後の対策として、やはりより多くの生徒に参加していただけるような事業内容に、令和3年度にはもう申込みは終わったのでしょうか。

議 長 生涯学習課長。

生涯学習課長 令和3年度、現在申込みを受け付けている最中でございます。

議 長 熊澤友子議員。

4 番 熊 澤 なかなか皆さんを集めて、この体験をしてもらうとかということは、前はよくやっていたようなんですが、今この状況ではできないと思いますが、やはりもっとPRして夏休みもやっていただいたりしてますので、その辺をしっかりとPRして、こういう楽しいことがあるんだよと、やはり子どもは楽しいとみんな集まって来るといったところがあると思いますので、その辺はしっかりと取り組んでいただきたいなと思っております。

議 長 生涯学習課長。

生涯学習課長 今現在の参加者数、30年、31年の参加者数ですが、学童さんは大体40数名といったような参加者数と聞いております。この放課後子ども教室につきましても、60、70、80名の方が参加しております。ですので、学童さんに登録をされていない方がちょっと行きづらいといったような意見については、またちょっと現場等とも確認をさせていただいて、何か支障があるようでしたら改善していきたいというふうに考えております。

それから、あと体験型のいろいろお話なんですけど、実は令和2年度、今年度夏休みに学習支援をしていたしました。30年度から学習支援を夏休みの部分を始めました。本来、放課後子ども教室それだけでいいかといいますと、そうでもございません。地域と結びつきを持って、様々な体験教室をしたいということで、実は令和2年度もそこら辺を拡充した中で教室を開催しようという予定ではございましたが、このような状況ですので開催することができなかつた。令和3年度については、同じように体験型を増やしたり、また夏休みの学習支援を拡充したりして、より学童さんと一体化したパイプを太くして運営していきたいというふうに考えております。

議 長 熊澤友子議員。

4 番 熊 澤 今課長のお話で希望が持てるかなと思いました。やはり子どもたちにとっ

ては1年から6年でやっていますので、いろんな方といろんなことを一緒にやるということはとてもいい体験になると思いますので、1週間に1回ですがしっかりと一緒にやっていただければありがたいと思います。

それで、以前視察に行かせていただいたときに、学校の備品は専門業者に見てもらおうというお話がありましたが、それは今でもきちっと続いているかどうか伺います。

議 長 もう一度お願いします。

4 番 熊 澤 学校の備品というか、子どもたちが一輪車を乗って練習したいという場面があったんです。放課後子ども教室の中で。たまたま私たちがちょっと視察に行っていたときにそういう状況だったんです。それで結構台数があるのに乗れるのはたった3、4台だったと。何でこれはこうなのと言ったら、壊れてるんですよ誰も見てくれる人がなくてと。そこで学校に、担当課に申入れすればいいことだと思ったんですけども、それを言っていなかったということで、私たちが代わりに学校教育課のほうに尋ねまして、その話をしましたら、備品ですので学校教育課だというお話がありました。そういうことは今起こっていないですかという確認でございます。

議 長 教育長。

教 育 長 学校の備品というか、いろんな消耗的なものもあるかと思いますが、壊れていて使えなかったという、ですから、多分子ども教室のメンバーの方が学校にちょっと遠慮されたのかなと思います。基本的には、必要なものについては貸出しをしておりますので、ですからその辺のところも横の関係ですかね、その連携の仕方。そのところがちょっとぎくしゃくしていると、やっぱりそういった子どもたちにも迷惑をかけるということでございますので、そのところうまくできるようにしていかなきゃいけないし、常にそういったところは努めていかなきゃいけないというふうに考えてございます。

議 長 熊澤友子議員。

4 番 熊 澤 それでは、今後はそういうことのないようにしていただけるということで理解してよろしいですか。

議 長 教育長。

教 育 長 学校のほうにも、それから子ども教室さんと生涯学習課ですので、その

ところをうまく、うまくというか、きちっと周知して、そのところは連携をきちっと取れるようにしていきたいというふうに考えてございます。

議 長 熊澤友子議員。

4 番 熊 澤 そのとき、その質問したときには、私たちは生涯学習課だと思ったんですけど、学校については学校教育課だと言われて、その交渉のところは学校教育課にお話を持っていったんです。それで備品は我々のほうでやります、専門家にてもらいますというお話だったので、そういう理解で大丈夫ですか、今でも。何かはっきりといつ直しましてこうできましたよという答弁、帰りもなかったのに、じゃあやってくれているんだなと思っているんですが、それで大丈夫でしょうか。

議 長 教育長。

教 育 長 以前に体育館の戸の開け閉めがちょっと大変だということで、放課後子ども教室等から学校教育課のほうに話がありまして、じゃあ早速すぐに直しましょうということで、そういったところが今後やっぱり必要じゃないかなというふうに思っていますので、ですから今懸念されておりますけども、そのところはきちっと連携をしっかりと取りながら進めていきたいと。ですから、今後そのようなことがないように努めていきたいというふうに考えてございます。

議 長 熊澤友子議員。

4 番 熊 澤 その連携を取るということも担当課もそうですけども、やはりアドバイザーの方とかが町のほうに言いやすいようなコミュニケーションを取っていただければありがたいと思います。その辺はぜひともそういうふうな状況、町のほうでもしっかりと承知していただきたいと思いますと思います。

議 長 生涯学習課長。

生 涯 学 習 課 長 放課後子ども教室のほうの対応ではございますが、週に1回のこととはいえ、現場にお任せするだけでなく、うちの職員毎回顔を出させていただいております。うちの職場には、たまたま社会教育指導員さん、校長先生上がりの方もいらっしゃいますので、その方にも顔を出していただいております。常に連絡体制は取れるような形を取っております。コーディネーターさんも毎週毎週のように足を運んでいただいて連絡調整を図っておりますので、

よろしくお願ひしたいと思ひます。

議 長 熊澤友子議員。

4 番 熊澤 今の両方のお話を聞きまして、放課後子ども教室も来年度からはしっかりと充実するのではないかと安心いたしました。

次に、学童保育についてお伺ひします。

答弁では、図書室の常時利用については今後検討していくという御回答いただきましたが、町長、先ほどの和田議員の回答のときに子どもが減っているという話で、2教室を1教室になるかもしれないとお話ししていましたが、担当課の推移では5年間、令和2年度から6年度までは減らないと、そういう推移を出してあります。ですので、私たちにしてみれば生徒は減少かもしれないですけども、学童に来る子どもたちは絶対に減らないよねというお話をしているところなんです。ですからやはり、2教室というのは本当に実際に見ていただければ分かると思ひますけども、44名いてもわざわざわざわざとしている。保護者の気持ちも分かるんです。家で宿題やるんじゃなくて学童に行ってからやってきなさいねというのが、それは本当に保護者の方働いている方ばかりなので、そういう声を出すの当たり前じゃないかなと思ひます。ですけど、すごいざわざわしている中で宿題をやれと言うのもまた環境が悪過ぎるなど私なんかは見ていてすごく感じました。その辺で、3教室にさせていただきたいというお話をしているんですが、その辺はどのようにお考えでしょうか。

議 長 町長。

町 長 答弁でも答えさせていただきましたけども、今現在、図工室のほうも使っておりますけども、12月から2月までが使えないというようなことで、そこを常時使えるようにできないかということで、今現在、まだ決まっておりますけども、ほかの教室を図工室に改修するということではできないかということで検討しておりますので、できるだけそういう方向で、常時今の図工室が。なるべく近くでなければ駄目でしょうから、そういったようなことが可能かどうかということで検討しておりますので、なるべくそういう方向で進めていきたいと。

議 長 教育長。

教 育 長

今まで2教室で、かなりそういうニーズも増えてきて、かなり狭くなってきていると、いろんなところで支障が出てきているということで、一度は、2年ぐらい前に福祉課からそういったことで相談がございました。教育委員会と福祉課のほうと協議して、何とかその図工室を必ず使いたいということがございまして、学校のほうに話をしまして、じゃあ毎月使っているわけじゃないと、やっぱり指導計画の中で図工を中心的にやる部分がありますので、それ以外のところは使うことは可能ですということで、そのところにエアコンを設置して、夏休み特にニーズも多くなりますので、それが使えるようにしてきたという経緯がございます。さらに、その使えない部分については、じゃあランチルームを解放しましょうということでしていました。そういう中、2年前からそういうちょっと懸念がございまして、検討をずっとしていたんです。そういう中で熊澤議員からも要望があったり、すぐ隣の教室のほうがいいだろうというようなことの中で図工室もちょっと今、常時使えるように検討しているということで、ただ図工室を別のところにするためには普通教室ではちょっと狭いんです。広さ的にはちょっと厳しいんです。あるいは作品を置かなきゃいけないとか、そういうふうなことがございますので、ちょっとどこまで必要なのか、どこで図工室の代わりになるのかということで今検討してまして、幾つか候補はもう挙がっておりますので、そのところで必要に応じて改修をして、そのところをより児童クラブの教室について環境を整えていきたいというふうに考えてございます。ですから、急にこれ始まったわけではございませんで、幾つかこう経緯の中で今日に至っているという状況ですので、さらに教育環境をもうちょっとよりよいものにしていきたいという考えで、実施の方向で検討していきたいと、こういうふうな町長の答弁のとおりでございます。

議 長

熊澤友子議員。

4 番 熊 澤

私たちも学校の中を地図を見ながらどこの教室が空いているのかということをやっと教頭先生が案内してくださって見てまいりました。生徒数は減っているのに空いている教室は何もないと言われました。それで空いてるのは、生活科室というんですか、学童の真上のそこしかないですよと言われて、そこだったら工事が必要ですしお金もかかりますというお話をいただきました。

た。それでその後に、多分学校のほうと福祉課のほうで協議されたんだと思うんですが、それで期間限定で図工室を空けるよというお話があって、福祉課は、そうしたらもう3教室は必要ないというお話になっているんですね。私それで納得できなくて、今こうやって質問しているんですけども。やはり何ていうんですか、期間限定で借りて、間借りをしている状況じゃないですか。いろんなものが置いてあって3分の2ぐらいしか使えないんです、学童は。そこはおかしいだろうと思っておりますし、その何でしたっけランチルームですか、ランチルームも5時になるとセキュリティーがあってシャッターが下りると、そういう場に私たちも立ち会ったことがあるので、そこだったら使える時間は限られているよねと。ランチルームだから次の日には使うわけだから、そうしたらちゃんと掃除して5時前には空けとかないと駄目ということじゃないんですかというお話をしました。そうしたらもう本当に使うところがないのではないか、それはおかしいんじゃないかと思って質問させていただいていました。その辺は、今教育長がお話したのは、今後しっかりと3教室の場所しっかりとどうにかしていくという話でしたよね。やはり一番図書室が最高だと思うんです、3教室にするには。ですから、やはり早急に学校のほうとしっかりとやっていただければありがたいと思うんですが、いかがですか。

議 長 福祉課長。

福 祉 課 長 まず、福祉課のほうとして、先ほど2教室でいいというような御発言ございましたけれど、福祉課のほうとしましても今の2教室プラス図工室を使って3教室でやるという方針でっております。どうしても冬場について図工室が使えないときはランチルームを使うということで、図工室もしくはランチルームプラス2教室というところで、これは必ず必要であるというふうな考え方でいます。

議 長 熊澤友子議員。

4 番 熊 澤 それは今の考え方でですね。以前質問したときには期間限定で使えることになったから大丈夫だよというお話で、3教室にする必要はないという答弁をいただいております、福祉教育常任委員会には。

ですから、じゃあもう3教室は無理なんだろうなと。でもそうじゃないだ

ろうと私たちは思っていましたので、ここで質問させていただいているんですが、やはりそのときにお金がかかるんだよと見積りをした金額も聞きました。そうしたら110万円だということで、じゃあ補助金は使えないですかと言ったら、補助金を使えるというお話も受けています。それで、補助金は国と県と町で3分の1ずつだというお話でした。それでもやってくれないんだと思って、私には納得いかなかったんです。ですから、やはり今副町長が子どものことだからお金を使うのは当たり前だという御答弁もいただいていますので、それとは要件が違うかもしれませんが、子どものことなのでぜひどうでしょうか。

議 長 副町長。

副 町 長 110万円ぐらいでどうもないですよ、はっきり言って。山北町はつぶれることはありませんので。必要なところは先ほど教育長が言ったように改修して、今ある図工室使えるようにするためにどこへ持っていったらいいのかと、かかる経費がそのぐらい必要、しょうがないと思いますよ。

議 長 熊澤友子議員。

4 番 熊 澤 では安心しました。やはり学童を充実させるためにはやっぱりよい環境をつくっていただき、よい学童にさせていただくのが一番でございますので、ぜひその辺は今後の事業を見ていきたいと思っておりますので、しっかりと取り組んでいただければありがたいと思います。

以上です。

議 長 町長、最後にどうぞ。

町 長 熊澤議員が御心配しているように、私も放課後児童クラブは減らないというふうにも思いますので、そういった意味では、やはり子育て支援の一環として、しっかりとそういったような教室を対応して、そして皆さんに使い勝手がいいような、そんなような学童に、児童クラブにしたいというふうにも思っております。よろしく願いいたします。

4 番 熊 澤 終わります。